

2011年
11・12月号

TOKYOタイムズ

トキオ

NO. 105
岩本工業 (株)

ホームページ <http://www.iwmt-kg.co.jp/>

Eメール: iwamoto@iwmt-kg.co.jp

「デジャブ」

H23年11月吉日 岩本 博之

デジャブ・皆さん御存知でしょうか？ **既視感**（きしかん）は、**実際は一度も体験したことがないのに、すでに何処かで体験したかのように感じる事である。** **デジャヴ**（仏: déjà-vu:「既に見た」の意味）・wikipediaより海外でも国内の旅行をしてもふとその光景を見たことがあり懐かしさを感じる、或いは初対面の人でも会った事があるような不思議な経験を少なからずお持ちだと思います。信心深くない私自身は予知能力や靈感は全く無く、占いや手相・人相見は信じない方ですが、何かの力が働いている様な局面には遭遇しています。30数年前は不眠不休でNC(コンピューターで動かす)機械に取り組み、休日は3~6ヶ月に一日ぐらい。一心不乱で現場作業をしていて加工が不可能かな？と思っている時に、解決案が夢に出てきた事が数回あります。「閃き！」は信じます。・・・人生「棚からボタ餅」は例え合ったとしても信じない方が宜しいかと・・・。もしもラスベガスのカジノや三億円の宝籤・相応の馬券が当たれば九割以上の(勿論私も含め)凡人は身を持ち崩すと思います。

出会も**別れ**も然り、感じる方には身の回りに不思議な事が多い、と思うと共にそこには当然、喜びや悲しみも有ります。「不条理」な事は頭で理解出来ませんが、幸せが大きいほど失くす悲しみは計り知れません。・・・でも逆説的に考えて喪失感の苦しみを避けられるとして、素晴らしい「思い出」そのものが最初から無ければ良かったとは思えません。バックNo.95号に載せたように喜びと悲しみが10回&9回よりは1000回&999回を私は選びます。秤に掛ける事は出来ませんが「千の風」がその答えのような気がします。

東日本大震災は東北に多大な被害をもたらし、原子力発電所の事故は日本の安心・安全文化を根底から揺るがす。日本全体にとって「復興」が最大の優先課題であり、そのけん引役は誰か解は明快だ。産業界、とりわけモノ造りを軸とした日本企業のイノベーションこそが再生への源泉となる。民主導・民間活力が日本の危機を救う。・・・日刊工業新聞より抜粋

震災後ドナルド・キーンさんが88才で日本人に帰化申請されました。第二次大戦中は海軍の情報仕官として日本兵の日記の翻訳や、捕虜の尋問を通して日本人の**心のひだ**を読み取り、源氏物語に描かれたような独特の美意識を持つ日本人、軍国主義にひた走る好戦的な日本人、そして戦いに苦悩する生身の人間としての日本人、いったい日本人とは何なのか。その内面をもっと知りたいと戦後、日本文学の研究で来日されました。狂言を嗜み俳句を研究する過程で56年前に「奥の細道」を辿って中尊寺を訪ね感銘を受けております。そしてキーンさんが最も日本人を理解する術となった高見順の日記には、10万人に及ぶ犠牲者を出した東京大空襲直後の日本人の姿が描かれています。母親を疎開させるため上野駅にやってきた高見、そこは焼け野原となった東京から逃れようとする人々であふれていました。家を焼かれ家族を失い、極限状態に置かれているにもかかわらず**節度と冷静さ**を失わないで、我慢強く順番を待ち続ける人々。それを見て高見が記した、「私の眼に、いつか涙が湧いていた。いとしさ、愛情で胸がいっぱいだった。私はこうした人々と共に生き、共に死にたいと思った。何の頼るべき権力もそうして財力も持たない、黙々と我慢している、そして心から日本を愛し信じている庶民の、私もひとりだった。」キーンさんの心の一部を読み解くと、**優しく静かな日本人**と一緒に居たい。これ以上の日本に対する褒め言葉はないほど絶賛されています。

上記の事を踏まえ団塊の世代が自信を持って(農業や伝統産業も含む)モノ造りを通して指導した若者達を見ると、ここ十数年の新入社員は鍛え甲斐のある若者に満ち溢れていると実感されているはず。更に言えば(難民も含め)外人労働者をも**モノ造りを通して**日本人らしさに同化させられる、と断言できます。世界一安全な原子力プラントを日本人だからこそ開発供給し、30数年後の全廃に向けて環境に優しい代替エネルギーを日本人技術者が必ずや確立するでしょう。

ISO 更新審査を終えて

ISO 推進室 篠嶋

9月30日~10月1日の2日間で行われたISO9001:2008、14001:2004の維持審査は私がISO推進室長となってから初めての審査という事もあり、特別な思いで臨みました。

2010年1月にISO推進室で運営側に入り、自部門だけを見ていた立場から全社的な取り組みを推進する立場となり、身の丈を超えた職務を与えられた私は、ただ我武者羅に自分が良いと思う事は推進会議で話し、それを実現する為に多少強引でも推し進めてきたように思います。必ずしも会社にとって良い結果は出ませんでした。私にとっては失敗しても得るものは大きく、次回はもっと良くしたいと思う気持ちもあり落ち込むような事はあまりありませんでした。

この経験を通して、自分に出来る仕事をどれだけ一生懸命しても成長スピードは遅く、自分の力量よりも高い仕事にチャレンジし、それを達成する為に自ら学ぶ事で成長が出来るのだと感じました。今回の審査はアドバイザーの小幡顧問及び、ISO推進メンバーの方々が各所で活躍して頂き、6件の観察事項がありました。不適合もなく無事に終わる事が出来ました。審査の為にではなく、会社をより良くする為に皆さんの力を借りて今後も精進したいと思います。

10月17日

コマツQCサークルミニ発表会



第2係 川端



コマツ栗津工場第7回の発表会に参加させていただきました。発表することの重要性を主旨に協力企業3社が発表し、当サークルには「**解析をもっと重要視し、重点思考で**」など多少厳しい指導・指摘も受け、また他社の元気の良い発表と合わせてとてもいい刺激になりました。「何度でも発表しチャレンジして下さい」と話されていたように今後も改善活動・発表を活発にし、より良いQCサークルを作って行きたいと思っています。



てっこうきでんスクール

第2係 的場

ポリテクセンター石川で9月6日~9日にかけて、きでんモノづくり技能継承スクールの「**旋盤の高精度加工技術**」の研修を受講してきました。この研修は中級レベルに相当し技能検定2級の一步手前ぐらいの感じでした。ただ、きでんスクールで募集すると受講者のレベルがまちまちになる為、各人のレベルに合った内容に変更したり、やりたい事を聞いたり柔軟な対応での研修でした。

内容は座学2割の実技8割で現場実習がメインで行われ、座学では切屑生成のメカニズムと汎用旋盤でのネジ切りのメカニズムについて、実技では溝入れ(突っ切り)、オス・メスのネジ切り、ローレット、テーパ加工を行いました。特に私はネジ切りが苦手だったので大変に勉強になりました。しかし使用する機械が会社にあるものとは縦送りと横送りのハンドルの位置が逆になっておりスムーズに機械が操れませんでした。

この4日間は長いようで短く全てが満足のいくレベルには成れませんでしたがとても楽しい4日間でした。